

「リフォームの時代」と 「地域材の時代」を重ねる

2010.10/24 (日) 申込締切: 2010.10/15 (金)

会場: 福岡市博多区吉塚本町9-15 (財)福岡県中小企業振興センター 4F ☎ 092-622-0011

日本の社会も「少子高齢化社会」「成熟社会」を迎えるに当たって「家余り現象」というものが懸念されています。また昨今の「リーマンショック」の世界的金融危機を経て新築住宅の着工戸数が減少してきています。最新(2003年)の空き家率は13.1%であり、常時新築着工戸数が100万戸以上あったものが、2010年は80万戸割が予想されています。それらに呼応するかのように顕在化してきたのが、痛んだ機器の交換やクロスの張替えといった「表層的リフォーム」ではない、「省エネ改修」「耐震改修」「バリアフリー改修」など生活の質を向上させる「本質的リフォーム」です。これを「リノベーション」と呼ばれることがあります、広い意味での「改修」ととらえて「リフォーム」という言葉をここでは使いたいと思います。

「リフォーム」は既存建物が抱える諸問題に対策を講じる好機です。例えば外壁をやり替えると同時に「省エネ改修」「耐震改修」を行う、床板のフローリングを張り替えると同時に「バリアフリー改修」を行うなど各工事を単独で行うよりコストも少なくてすみます。築年数が経過した既存住宅ストックの購入を検討しているオーナーは少なからず性能面全般に不安を抱えています。表層的リフォームを要望されたとしても既存建物を的確に診断し、既存ストックを良質なストックに替えてゆくような「改修」を提案するようにこころがけ、オーナーの不安を取除くためのプロセスを明確に提示して信頼をつかむことが望まれます。

ストック型社会を形成するに当たり、国も「いいものを作つて、きちんと手入れして、長く大切に使う」ことを掲げて、そんな消費者に対して税制やローン面でのインセンティブも考えられています。まさに「リフォームの時代」をむかえようとしています。

一方、地域材の方も<木材の地産地消>運動ともいべき、地域の環境保全、地域の資源循環や地域経済の活性化などを目的にした「地域の木材を地域で使い、地域の山や木材産業を守ろう」という取組が多数なされており、全国で500余りのグループが活動しています。「顔の見える木の家づくり」活動はその緒についたばかりだともいえます。そのような運動は地域の伝統や文化の継承、小さな木材資源の循環、地域の環境保全などに寄与してきています。しかし、住宅が「性能」を要求される時代に「地域材」の対応はいさか遅れていると言わざるを得ません。「乾燥」「強度」「量のストック」など各地域の対応は手つかずのままといつてよいと思います。また「大量生産・大量消費」に慣れた都市の消費者に対して<木材の地産地消>の価値を分かりやすく定着させるには、それなりの<体験>と<時間>が必要になってきます。「地域材の時代」はそのような時期に位置しています。

今回のフォーラムでは「リフォームの時代」×「地域材の時代」を縦横に重ねて、<「性能」×「環境」>の切り口から議論を深めてゆきたいと思います。

10/24
(日)

[フォーラム]
13:00~18:00(会場401号室)
事例報告・パネルディスカッション

[交流会]
18:15~21:00(会場403号室)
定員40名・立食形式

会場: (財)福岡県中小企業振興センター 4F



【主催】NPO法人 九州森林ネットワーク

【後援】福岡県、大分県、熊本県、宮崎県、小国町、諸塙村、日田市、福岡市、トライウッド、小国町森林組合、浮羽森林組合、(社)福岡県建築士会、(社)日本建築構造技術者協会九州支部、暮らし向上リフォーム研究会(申請中も含む)

問い合わせ先

NPO法人 九州森林ネットワーク事務局(小国町森林組合事務所内) TEL.0967-46-2411